

高千穂神社：概要

高千穂神社は 2000 年あまりに渡って、信仰の拠点、神話の発祥、そして民俗芸能の夜神楽という遺産を伝承してきた。高千穂地域に点在する 88 社、かつては 554 社の総社として、それら全ての御神体を祀るだけでなく、聖なる暮らしの営みの中でも極めて重要な役割を果たしている。神社本殿とともに狛犬像一対が国重要文化財に指定されているほか、神社内外に見られる自然や建築の数々は、日本の創世記を物語る神話に直接結びついている。境内では毎晩 1 時間に渡って高千穂の夜神楽が披露されており、神殿には、夜神楽 4 番に登場する五柱の神々のうち二柱、太陽神・天照大神と芸能の女神・天鈿女命が祀られている。ただし、高千穂神社の総氏神は、五穀豊穡、縁結び、交通安全、厄除の神とされる高千穂皇神と十社大明神である。境内の建築は、神社がこの地域で果たしてきた役割の大きさに比べると驚くほど簡素で、飾り気のない木造建築が周囲に根を張る無数の木々と調和しているようだ。御神木には秩父杉や夫婦杉が含まれ、それぞれ時代を超えて聖なる自然の精神を体現してきた存在として崇められている。